

あじさいネット

OFF LINE 通信

2024.7

Vol. 51

Regional Health Information Network



© Nagasaki Prefecture Tourism Association

大三東駅（島原市）

特集 家庭用バイタルデバイス	
特集	「日常生活の健康データを日常診療の中で利用する時代に」 あじさいネット理事 松本 武浩 先生 p.2
特集	情報提供病院 長崎県対馬病院 八坂 貴宏 先生 p.3
特集	情報閲覧施設 阿保外科医院 阿保 貴章 先生 p.4
お役立ち	情報提供病院 連絡先一覧 p.5-6
特集	情報閲覧施設 大島ながたクリニック 永田 純一 先生 p.7
連載	あじさいな人々／編集後記 p.10

現在の運用状況

- 患者登録数： 187,502 名
- 会員数： 2,048 名
- 情報閲覧施設数： 362 施設
- 情報提供病院数： 38 施設

(令和6年6月24日現在)

賛助会員

- ◆ 日本電気株式会社 医療ソリューション事業部
- ◆ 株式会社LSIメディエンス
- ◆ 株式会社NTTデータ中国
- ◆ 富士通 Japan 株式会社 長崎支店
- ◆ 株式会社インテグリティ・ヘルスケア
- ◆ 東七株式会社
- ◆ ノバルティス ファーマ株式会社
- ◆ 株式会社エスアールエル
- ◆ 沢井製薬株式会社



特定非営利活動法人
長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会（あじさいネット）

事務局：〒852-8532 長崎県長崎市茂里町3番27号（長崎県医師会内）
TEL. 095-844-1111 FAX. 095-844-1110 Eメール：aj-na@nagasaki.med.or.jp

これからは日常生活の健康データを 日常診療の中で利用する時代に

特定非営利活動法人 長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会 理事
長崎大学病院 医療情報部 部長

松本 武浩 先生

我が国の医療の情報化が、欧米諸国に比し大きく遅れていることが、新型コロナウイルス蔓延下に露呈したのは皆さんの記憶に新しいかと思えます。一番の違いは医療機関における電子カルテの普及率（導入率）です。北欧のデンマーク、スウェーデンは100%、原則医療費が無料の英国でも診療所にあたるG P (General Practitioner) では100%の導入を達成しており、後塵を拝していた米国もオバマ政権下の導入インセンティブにより大きく進み今では、90%以上とされています。

一方、我が国の導入率は400床以上の大病院には、90%以上導入されているものの、200床未満の病院あるいは診療所の導入率は60%弱と大きく差をつけられています。あじさいネットがそうであったように、電子カルテが導入されれば、電子化した診療情報をインターネットにて共有できるわけ、H I E (Health Information Exchange) と称してあじさいネット



と同様の施設間患者情報共有が進んでいます。さらにH I Eのデータがすでに臨床研究にも活用されており、急遽開発されたRNA型の新型コロナウイルスワクチンの効果評価がこれらのデータを利用して、極めて短時間にその効果のEvidenceが発表されています。これに政府は危機感を抱き、急遽オンライン資格確認を義務化し、マインバーの保険証利用、電子処方箋運用開始と矢継ぎ早に医療のICT化を推し進めているわけです。こういった状況である以上、まず、後戻りは無いものと思われ

ます。さて、あじさいネットはまさしく我が国最初のH I Eであり、拠点病院の診療情報共有にとどまらず、次々と新機能を加えて日々進化しています。また、政府はマイナポータルを中心としたPHR (Personal Health Record) をも進めようとしています。すでにあじさいネットでは、オンライン診療ソフトウェア「YaDoc」、健康管理ソフトウェア「Smart One

Health」とその兄弟システム(OEM)である「Saludi」が利用できます。YaDoc利用には別途費用がかかりますが、(それでもあじさいネット特別価格の適応で一般の約1/3の費用で利用可能!) 「Smart One Health」や「Saludi」はあじさいネット会員であれば無料で利用できます。これらのソフトウェアは、血圧計、体温計、パルスオキシメーター、体組織計付き体重計および活動量計の計測データの自動入力が可能であり、その効果評価に関する実証事業を実施中です。

本号では、本事業に参加された先生方が口々にその有益性を述べています。つまり、皆さまも、このような機器を利用すれば同じようにデータ閲覧・管理が可能ですし、機器が無くても、結果を前述のスマートフォンアプリに手入力することで、同様の結果が得られます。この機会に使ってみませんか? 是非、日常の診療にお役立てください。



《賛助会員様広告欄》



Healthcare for You

私たちエスアールエルは、医療機関から預かる、患者さまの検体を通して、
いのちの未来を見つめています。



2020年10月1日、エスアールエル、富士テレビオ、日本ステリの営業機能がひとつになり、H.U.グループの営業統合会社「H.U.フロンティア株式会社」がスタートしました。

株式会社 エスアールエル 本社 〒163-0409 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング TEL.03-6279-0900 www.sril-group.co.jp

離島での取り組み： 家庭用バイタルデバイス貸与事業

長崎県対馬病院 院長 ^{やさか たかひろ} 八坂 貴宏 先生



2004年
あじさいネット
入会

はじめに

対馬は、九州と韓国の間には浮かぶ島で、南北に約82キロと縦長の形をしています。人口は約2万8千人、高齢化率39%で、下島の北部に対馬病院（以下、当院）があります。当院は、対馬の基幹病院として、外来・救急・入院など地域医療の中核を担っています。そのほかに検診や在宅医療としてICT導入にも積極的に取り組んでいます。

参加導入した経緯

2015年新病院の開院時に電子カルテシステムを整備し、2017年にあじさいネットの情報提供病院となりました。

2022年度末には、あじさいネット「YaDoc」システムを利用したオンライン診療を開始、外来での生活習慣病管理や在宅診療に活用しています。2022年から家庭用バイタルデバイス貸与

事業を開始することとなりましたが、当院が上記のようにオンライン診療を導入しており、離島という環境に立地していることから事業に参画することとなりました。

バイタルデバイスの活用

当院では、上腕式血圧計、電子体温計、パルスオキシメーター等のデバイスを、3セット貸与され、生活習慣病の外来診療ならびに難病等の訪問診療で活用しています。これまでに、外来診療で2名、在宅診療で4名の患者さんに、3か月〜1年間利用しました。外来では、毎日1回、血圧・脈拍・体重・活動量を、在宅では、毎日朝夕の3回、脈拍・血圧・体温・血液酸素濃度を測ると、データが連携させたスマートフォンからクラウドサーバに転送されるので、対馬病院の電子カルテ端末、あるいは手持ちのタブレット端末で確認して診療に活用できます。チャット機能もあるため、主治医から情報を伝達したりすることもできます。

当初はバイタルデバイスとスマートフォンとの連携設定に時間がかかり、またiPhoneからのデータ送信がうまくできない事象があり、苦労しました。しかし最近では、慣れて来て円滑にできつつあるように感じています。外来の患者さんは、血圧や体重等の毎日の変化が良く分かり、食事改善や運動量増加につなげることができ成果が1か月ほどで評価できた方もいました。在宅の患者さんは、血圧・体温・酸素飽和度等の変化が定期的にチェックできるの、状態の変化が早くわかりタイ

ムリーに対応ができることで、悪化させない、入院不要なケアができやすくなったと思います。ご家族からは、今の状態を先生が診ていてくれるという安心感があり状態の変化があれば翌日までには対応してもらえるので助かっています、という感想も寄せられています。

今後どのように活用していくか

どのような疾病や生活環境の方にこのシステムが活用しやすく効果が表れやすいか、そして生活習慣病管理では、塩分やカロリー制限、運動量増加といった行動変容を起こさせるためには、どのような指導方法が良いか、検討したいと思います。また、患者さんだけでなく生活習慣病予備軍の方々の健康管理に利用し、未病の状態を長く維持し将来的な合併症の予防に寄与できれば、価値はさらに高まると思います。

将来、期待すること

これまでの運用で、PHRの有用性を肌で感じる事ができたと思います。今後は、スマートフォンやスマートウォッチとの連携でもっと容易にデータの測定や連携ができれば、利用が拡大できると思います。そして、近い将来、スマートフォン利用者が高齢化して介護される側になれば、これらのPHRが普通に在宅ケアに利用されているかもしれないですね。離島・へき地は超高齢化社会の最前線です。我々の取り組みが、日本の将来の仕組み作りになれば、喜ばしいことだと思っています。

長崎県対馬病院

TEL. 0920-54-7111

FAX. 0920-54-7110

《賛助会員様広告欄》



Healthy Living

FUJITSU

ライフエクスペリエンスを最大化
— あらゆる人の可能性を拡張し続けられる世界を創る

HumanBridge EHRソリューション

製品・サービスについてのお問い合わせは
富士通コンタクトライン（総合窓口）0120-933-200
（受付時間 9:00-17:30 土・日・祝日・年末年始を除く）
<https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/healthcare/products/humanbridge/>

Fujitsu
UVance

在宅医療における 家庭用バイタルデバイスの使用経験



2015年
あじさいネット
入会

あぼ たかふみ

医療法人 阿保外科医院 阿保 貴章 先生

参加した経緯

在宅医療の現場では、急変の可能性がある患者さんや、そのバイタル変化に早期の対応が必要な患者さんにおいては、患者さんの日々のご様子、バイタル情報をチームの多職種、介護している御家族、紹介元の病院医師が把握しておくことが望まれます。

今回の研究は、上記のような在宅の現場における患者さんのバイタル情報を多職種で共有できると思い本研究へ参加しました。

協力いただいた患者背景

御協力いただいた患者さんは、小児期からの筋ジストロフィーにて大学病院と併診で在宅療養をサポートしている20代の患者さんです。呼吸不全のため14年前より

BIPAP使用中、2018年7月呼吸困難の増悪にて当院にて往診、呼吸困難、聴診上の異常にて大学に搬送、気胸の診断にて手術を施行、気管切開、人工呼吸器管理となっていました。2020年には約8か月の間に左気胸、右気胸、右気胸にて大学病院に救急搬送となりその都度手術を施行されている状況でした。

導入の目的

今回、貸与された機器によりバイタルデータを記録し、観察することにより、気胸そのものの発症、その原因となる炎症の発症を早期にとらえ、早期の対応、気胸の予防につなげることを目的として今回の研究に協力を依頼しました。幸い、コロナ感染症の拡大で徹底した感染防御体制となったためか、ここ数年は今回の事業参加中も含めて呼吸器感染症、呼吸困難、気胸等の発生を認めることはありませんでした。

運用開始後気づいた点

実際の運用開始後、御家族から指摘いただいた点は、我々多職種が共有するバイタルデータを主介護者である母親も自分のスマートフォンで把握したいという点でした。測定データのアップロード等の操作は患者さん本人が行っているため、そのデータの一覧、推移のグラフ等を母親が目にする事ができないためでした。しかし、本ソフトウェアには閲覧者を複数人設定できる機能があり、これを

設定することで、母親のスマートフォンでも閲覧できるようになり、それ以後、母親がバイタルデータの推移をほぼ毎日観察してくれることとなりました。今回の研究期間中に急変はありませんでしたが、気管切開部の妻孔の処置などを行った後などは、心拍がいつもより10程度多めに推移していることなどにいち早く気づいておられましたので、感染等が発症した際は普段の状況との違いに最も早く気づいて頂けることが予想されました。実際の運用では患者さんが安定している状況だと毎日、時間単位のバイタルデータの変化を多職種が観察し続けるのは困難と思われれます。介護者が毎日観察することでその変化に気づき、それを多職種へ連絡して頂き、そのデータの動向を評価し対応する、という運用が現実的な運用の一つとして考えられました。

今後期待すること

デバイスとスマートフォンの連携、アップロードの操作について、使用する機器の違い、各自のスマートフォン設定の問題もあり、なかなかスムーズなデータのアップロードができないことがあります。今後はバイタルデバイスのみならず、多種多様なデバイスとスマートフォン等との連携が進むと考えられ、高齢者においてもスムーズな運用が実現できるのではないかと考えられます。

医療法人 阿保外科医院

TEL. 095-839-1151

FAX. 095-839-0482

E-mail : tac-a@pop11.odn.ne.jp

《賛助会員様広告欄》

NTT Data
株式会社NTTデータ中国



あじさいネットにプラス+

オンライン請求・オンライン資格確認

訪問看護
ステーション
受付中です

オンライン請求・オンライン資格確認導入には、NTT データ中国の

「おまかせパック」をご利用ください

専用PC付きプラン「おまかせパック」申込受付中

NTT データ中国「オンライン資格確認」接続サービス推進事務局

お電話：082-567-4810 メール：houkan@its-center.net



技術員が訪問し
設置・接続いたします



あじさいネット説明同意書の送付先一覧

AJISAI NET

見やすいところに貼ってご利用いただくと便利です

(2024年7月現在：情報提供病院数 38 施設)

長崎地域

五島

医療機関名・受付時間 (日曜・祝日は全施設受付なし)	FAX 番号	電話番号
光晴会病院 地域医療連携室 (平日 8:30-17:00 土 受付なし)	0120-573-632	095-857-3563
十善会病院 地域連携室 (平日 9:00-17:00 土 受付なし)	095-801-2590	095-801-2599
長崎大学病院 地域医療連携センター (平日 8:30-17:00 土 受付なし)	095-819-7305	095-819-7930
長崎みなとメディカルセンター 患者総合支援センター (平日 8:45-17:00 土 受付なし)	095-821-1116	095-822-3251
日赤長崎原爆病院 病診連携室 (平日 8:30-17:00 土 受付なし)	0120-845-262	0120-845-261
済生会長崎病院 地域医療連携センター (平日 8:30-17:00 土 受付なし)	095-827-7025	095-827-7021
聖フランシスコ病院 地域連携科 (平日 9:00-17:00 土 9:00-12:00)	095-845-7600	095-846-2553
井上病院 地域連携室 (平日 9:00-17:00 土 9:00-12:00)	095-849-6622	095-844-1281
長崎記念病院 地域連携室 (平日 8:30-17:00 土 受付なし)	095-871-1510	095-871-1515
長崎北病院 診療録管理室 (平日 9:00-17:00 土 9:00-12:00)	095-886-8707	095-886-8700
虹が丘病院 地域医療連携室 (平日 8:30-17:00 土 受付なし)	095-856-1102	095-856-1112
上戸町病院 地域連携室 (平日 9:00-17:00 土 受付なし)	095-832-5616	095-832-5615
国立病院機構 長崎病院 地域医療連携室 (平日 8:30-17:15 土 受付なし)	095-808-0176	095-824-2788
重工記念長崎病院 地域連携・入退院支援センター (平日 8:30-17:00 土 8:30-11:30) ※ 第2・第4土曜のみ受付	095-801-5520	095-801-5517
長崎北徳洲会病院 医局 (平日 9:00-17:00 土 受付なし)	095-813-5862	095-813-5861
長崎百合野病院 地域連携室 (平日 8:30-17:00 土 8:30-12:00)	0120-857-057	095-857-3366
長崎県上五島病院 地域医療連携室 (平日 8:30-17:15 土 受付なし)	0959-52-8150	0959-52-3000
長崎県五島中央病院 地域医療連携室 (平日 8:30-17:00 土 受付なし)	0959-75-0657	0959-72-3181

《賛助会員様広告欄》



Novartis Pharma K.K.

新しい発想で医療に貢献します



ノバルティス ファーマ株式会社

<http://www.novartis.co.jp/>



あじさいネット説明同意書の送付先一覧

AJISAI NET

見やすいところに貼ってご利用いただくと便利です

(2024年7月現在：情報提供病院数 38 施設)

	医療機関名・受付時間 (日曜・祝日は全施設 受付なし)	FAX 番号	電話番号
県央・佐賀・島原	国立病院機構 長崎医療センター 地域医療連携室 (平日 8:30-17:00 土 受付なし)	0120-731-063	0120-731-062
	市立大村市民病院 地域医療連携室 (平日 8:30-17:15 土 受付なし)	0120-378-375	0957-52-1800
	国立病院機構 長崎川棚医療センター 地域医療支援センター (平日 8:30-17:15 土 受付なし)	0120-82-2970	0956-82-3121
	諫早総合病院 医療連携室 (平日 8:30-17:00 土 受付なし)	0120-1388-35	0957-22-1380
	貞松病院 地域医療連携室 (平日 9:00-17:00 土 受付なし)	0957-54-1165	0957-54-1161
	愛野記念病院 地域医療連携室 (平日 8:30-17:00 土 受付なし)	0957-36-7072	0957-36-3950
	日赤長崎原爆諫早病院 医療連携室 (平日 8:30-16:30 土 受付なし)	0957-43-2870	0957-43-2111
	南野病院 地域医療連携室 (平日 9:30-16:30 土 受付なし)	0957-54-8752	0957-47-5200
	宮崎病院 地域医療連携室 (平日 8:30-17:00 土 受付なし)	0957-25-7053	0957-25-4800
県北	国立病院機構 嬉野医療センター 地域医療連携室 (平日 8:30-17:15 土 受付なし)	0120-473-489	0954-43-1213
	長崎県島原病院 地域医療支援センター (平日 9:00-17:00 土 受付なし)	0957-63-6544	0957-63-1145
	佐世保市総合医療センター 地域連携センター (平日 8:30-17:15 土 受付なし)	0956-24-0474	0956-24-1515
	佐世保中央病院 地域医療連携センター (平日 8:30-17:30 土 8:30-12:00)	0800-7000-070	0120-33-8293
	佐世保共済病院 医療連携室 (平日 8:30-17:30 土 受付なし)	0120-12-2067	0956-22-5136
県南	長崎労災病院 地域医療連携室 (平日 8:15-17:00 土 受付なし)	0120-666-437	0956-49-2191
	青洲会病院 地域連携室 (平日 8:30-17:00 土 受付なし)	0950-57-2151	0950-57-2161
	長崎県杵岐病院 地域包括健康増進センター (平日 8:30-17:15 土 受付なし)	0920-47-1136	0920-47-1135
	光武内科循環器科病院 地域連携課 (平日 9:00-16:30 土 受付なし)	0920-48-1655	0920-47-0023
対馬	長崎県対馬病院 地域連携室 (平日 8:30-17:15 土 受付なし)	0120-765-191	0920-54-7172
	長崎県上対馬病院 地域連携室 (平日 9:00-17:00 土 受付なし)	0920-86-4324	0920-86-4321

《賛助会員様広告欄》

Orchestrating a brighter world

NEC

<https://www.nec.com/>

西海市大島であじさいネットを使ってみた！ ～家庭用バイタルデバイス貸与事業～



2022年
あじさいネット
入会

大島ながたクリニック 院長 ^{ながた} ^{じゅんいち} 永田純一 先生

地域医療の課題に 積極的に取り組むため開院

私自身も日々、地域住民として、医師として、診療に関わる仲間たちとともに、さまざまな地域課題を感じています。特に医師不足には深刻な危機感を抱いており、今年度には2つの医療機関が開院するなど、西海市の医療体制が転換期にあることを強く感じています。地域のかかりつけ医の不足や少子高齢化、多死社会の進行に直面する中、私たちは今後どのように対処していくべきか真剣に考えています。

まず第一に、身近なかかりつけ医として地域社会に溶け込むことが重要だと考えクリニックを開院

しました。これをスタートラインとして、2030年代に主流となるであろうAIやICTを活用した医療を融合していくことを目指しています。

そうしたい思いから、開院以来利用しているあじさいネットシステムや家庭用バイタルデバイス貸与事業について、現場で感じたことや私の想いを共有させていただき

バイタルデバイス、 あじさいネットを使う 有用性を実感

当院では、令和6年度末時点で、約100名弱の患者さんにあじさいネットに登録いただき、中核病院との連携に役立たせていただいています。また、今回の事業期間のうち1年ですが主に在宅療養中の患者さんに対して家庭用バイタルデバイス貸与事業に参加頂きました。

在宅療養患者さんのバイタルサインをクリニックにしながら、尚且つ訪問看護師や薬剤師とリアルな情報を共有できる事業は医療資源の限られた大島や離島の医療には大変インパクトがありました。課題はありますが、患者さんやその家族にとって優しい仕組み作りが可能であることを信じています。今後も利用者の声に耳を傾け、より良い使用に努めていきます。

利用方法の変化

あじさいネットの利用についても、当初は急患、搬送患者さんや在宅療養患者さんに対しての情報収集として一方通行の閲覧が主体でしたが、長崎市内、県内の先生方に刺激を受け、最近では中核病院に積極的に働きかけ、かかりつけ医として顔の見える関係を作ること、退院前カンファレンスや、在宅療養患者さんの相談、報告などが徐々にですが、地域の多職種の皆様ともに行うことができるようになりました。

まとめると、開院当初思い描いていた通り、今後はさらにかかりつけ医、ましては在宅医、看取り医は稀有で貴重な存在になると再認識しています。その上で医療資源が限られた地域で、継続的な医療体制を整えるためにはあじさいネットを初めとする医療情報システム、デバイスは欠かせない存在だと思っています。

これからは、さらにより患者さんのそばで温かみのある医療を提供しながら、AIやICTの力を融合させる必要があります。

最後に、西海市の大島で開院してから早くも2年が経ちます。この間お世話になった、地域住民職員の皆様、そして関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

大島ながたクリニック TEL. 0959-23-0777 FAX. 0959-23-0677 E-mail : oshima.n.c.@gmail.com

《賛助会員様広告欄》

東七は「健康」をテーマに、医薬品の安定供給と医療機器販売、介護サービス支援を通じて、地域医療の発展に貢献する『総合ヘルス・コーポレーション』を目指しています。

2023年 東七は、創業117周年を迎えました。

～ Since 1906 ～



本社所在地 〒857-0192 長崎県佐世保市瀬戸越4丁目1318-1 TEL 0956-41-0777 介護サービス 0956-37-6000

- 測定機器との連携によりPHRデータを自動で記録
- 各データの関係性を自動で「見える化」
- 患者さんとメッセージ機能で連絡可能
- 患者さんの日々のバイタルデータを見ながら会話も

+

導入費用・ご利用料金とも無料
すぐにお試しいただけます

ご利用料金 **¥0**/年

対面・オンライン問わず、医療の質向上のためPHRが診療で活用され始めています

Personal Health Record (以下、PHR) とは、個人が生涯で発生させる様々な医療や健康に関するデータ全般を指す言葉です。臨床現場でのICTの普及と発展に伴い新しい概念として注目を集めるようになってきました。日本では手帳文化が根付いており、これをデジタル化したPHRは医療と親和性が高いと注目されてきました。お薬手帳も一種のPHRといえます。

最近では一般消費者向けのデジタルデバイスが普及し、患者さんの日常生活における血圧、体温、体重、運動量、食事、睡眠などさまざまなPHRが収集できるようになりました。加えて健診結果や医療機関での臨床検査結果なども、デジタル化され患者さんのスマートフォンで確認できるようになってきています。

問診など患者さんの記憶から聞き出す従来の手法に加え、患者さんの日常生活の状態を確認する手段としてPHRを診断や治療に活用しよう、という新しい動きが臨床現場でも広がっています。具体的には、高血圧症の患者さんが測定した家庭血圧の変動や傾向を診療時に確認する、スマートフォンで体重や食事の写真などを記録してもらい、栄養指導や運動療法の指導に活用するなどです。さらに糖尿病の患者さんに朝夕夜と自己測定血糖を記録してもらい、日内変動をリア

ルタイムで確認することで、次回診察を待たずに薬剤の用量変更を連絡することも可能です。

このように進化するデジタル技術を診断、治療に活用する医療DX (Digital Transformation : デジタル・トランスフォーメーション) は注目を集めており、政府も国策として積極的に推進しています。

SaluDiは日常生活のバイタルや食事を記録できるだけでなく、様々な測定機器との自動連携、診療や服薬指導における患者さんのバイタルデータ確認など、対面・非対面(オンライン)の両方でPHRを診療に活用いただけるアプリになっています。



人生100年時代を見据えた、社会的な動向から見るわが国のPHR活用

人生100年時代の本格的な到来を見据え、国は全世代型社会保障の構築をめざしています。年代によって社会保障の支える側、支えられる側に分かれるのではなく、全年代で支え合う社会を構築しよう、という動きです。すべての世代、すべての地域の住民を対象に、疾病予防、健康づくりの取り組みが進められています。

厚労省では、2024年度から始まる健康日本21 (第3次) において、「全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現」というビジョンを掲げ、①健康寿命の延伸・健康格差の縮小、②個人の行動と健康状態の改善、③社会環境の質の向上、④ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりの4つを基本的な方向として定めています。

経済産業省では「人的資本経営」の考え方に基づき、企業が従業員への健康投資を通じて業績向上を目指す「健康経営」を推進しています。従業員の健康確保を組織活性化や生産性向上といった企業価値を上げるための取り組みとして位置付けるもので、優良な健康経営を実践

している大企業や中小企業等の法人を顕彰する「健康経営優良法人」の認定制度のもと、健康経営に取り組む企業は年々増加しています。

その他、国土交通省による健康・医療・福祉のまちづくり推進、スポーツ庁による身体活動の促進、農林水産省による食育の推進など、健康寿命の延伸を目的としたさまざまな施策が各省庁、関連団体によって実施されています。

背景がそれぞれ異なる個人に対して、より良い、最適化されたサービスを提供するため、PHRの活用が模索されており、各施策でもPHRの活用が組み込まれているものが多くあります。医療や介護においても個別化治療のためにPHR活用が進むのに加え、産業保健、地域保健、学校保健、母子保健など各年代の疾病予防の取り組みと、地域医療をつなぐサービスが今後多く誕生していくことが考えられます。このような疾病予防と医療をつなぐ際に、患者さんの日常生活の状態や健診結果をPHRとして地域医療で活用する動きが広がっていくと考えられています。

電話で不明点を聞きたい MRから詳しい説明を受けたい
など、少しでもご要望がございましたらこちらまでお問い合わせください。

沢井製薬 医薬品情報センター

☎ 0120-381-999



PHR(パーソナルヘルスレコード)管理アプリ [サルディ]



無料で簡単！ご利用の流れ

ステップ1
(利用準備)



1 利用登録

PCの場合

下記のURLにアクセスしてください。
www.smartonehealth.jp/redirect/ajisai2407

スマートフォンの場合

右記の二次元コードから >
お申し込みください。



利用規約に同意の上、利用登録を進めてください。 ※いずれの場合も連携システム「SmartOneHealth」のサイトに遷移します。



2 初期設定

利用登録完了メールが届いたら、画面の案内に沿って初期設定を行います。メールアドレスとパスワードを入力してログインすると、すぐにご利用可能に。

医療現場での活用を開始する

ステップ2
(本格活用)



3 患者さんへのご案内

ご利用開始後、患者さんへ案内を開始。患者さん向けパンフレットを印刷し、医療機関個別の「連携コード」を記載して患者さんにお渡しします。患者さんがSaluDiから連携コードを入力することで、患者さんのPHRを確認することができるようになります。

患者さんの日々の状態を確認しつつ診療を行うことができ、
かかりつけの医療機関として、より精度や質の高い診療・服薬指導などが可能に。

パンフレットデータはこちらから ※いずれの場合も連携システム「SmartOneHealth」のサイトに遷移します。

PCの場合

下記のURLにアクセスしてください。
www.smartonehealth.jp/redirect/saludi_ptg/

スマートフォンの場合

右記の二次元コードから >
アクセスしてください。



導入検討の際にあったQ&Aの例

Q 他のPHRアプリとの違いは何ですか？

A 製薬企業が提供するPHRアプリとして、医療・臨床の現場でも使って頂ける仕様を意識して設計していることが特長です。具体的には利用者(患者さん)が様々な測定機器と連携する形でバイタルデータや生活ログ(歩数・活動量・食事など)を記録・管理でき、それらのデータを利用者のアプリ上での同意(許可設定)により、医療従事者(医師・薬剤師など)と共有できるようになっています。また、バイタルデータ以外にも血液検査の結果や服薬状況なども管理できる機能を有しています。

Q セキュリティはどうやって担保されていますか？

A データは通信を暗号化することで、セキュリティ対策を施しています。また、セキュリティ対策を施した専用のクラウドサーバーに保存されます。
※3省2ガイドライン(厚生労働省、総務省、経済産業省の3省が発行している医療情報を取り扱うガイドライン)に準拠しています。

Q 患者さんのバイタルを見ることの同意はどのように取得しますか？

A 患者さんがSaluDiの「医療機関連携」メニューから医療機関に発行した連携コードを入力することでバイタル共有の同意を取得したことになります。
※医療機関で個別の同意取得は必要ありません。

Q 全ての機能を無料で使用できますか？

A 現状の基本機能が有償になることはありませんが、今後新たに有償の付加価値サービスを追加する可能性があります。

Q 医療機関の採用数はどれくらいですか？

A 2024年3月時点1,264の医療機関でご利用いただいております。

医療DXとは何か？

あじさいネット OFF LINE 通信

編集長 松本 武浩

医療DXという言葉が飛び交っていますねー！でも医療DXって何でしょう？多くは医療分野でコンピュータをはじめとするICTを利用することのように使われているように見えます。厚生労働省のHPに医療DXのページがあり、そこには以下のように記されています。

「医療DXとは、保健・医療・介護の各段階（疾病の発症予防、受診、診察・治療・薬剤処方、診断書等の作成、診療報酬の請求、医療介護の連携によるケア、地域医療連携、研究開発など）において発生する情報やデータを、全体最適された基盤（クラウドなど）を通して、保健・医療や介護関係者の業務やシステム、データ保存の外部化・共通化・標準化を図り、

国民自身の予防を促進し、より良質な医療やケアを受けられるように、社会や生活の形を変えることです。」あらゆる医療行為やケアでの医療情報やデータを共有してそのデータを活用することと読めます。なんとこれはあじさいネットそのものではないですか！しかもこれを厚労省が進めているわけです。つまりあじさいネットが20年間続けてきた診療情報の共有をやつと国が必要と認めたことになりま

ます。この点機能面からの、あじさいネットのアドバンテージは、自分の間揺るがないものと思われれます。あじさいネットはわが国を代表する医療情報システムなのです。しかもあじさいネットには今回特集したデジタルデバイスを利用したPHR機能、オンライン診療機能も備えています。さあ、使っていない機能があれば、どんどんご利用ください。会員でない皆さまは、国もすすめる医療DXシステムの中で日本一先進的なあじさいネットに入会し存分にご利用ください。なぜ、国が進めるのか、なぜ、会員や患者さんの満足度が高いのかわかるはずです。入会は簡単、長崎県医師会に連絡するだけです。

あじさいな人々

たくま かずひこ



漫画制作： たくま医院 院長 詫摩和彦先生 (長崎市医師会所属/長崎在宅Dr.ネット 副理事長)

*ご感想は、あじさいネット事務局 [aj-na@nagasaki.med.or.jp] までメールをお願いいたします。

《賛助会員様広告欄》

Good Health Creator, MEDICAL+science

Medical Scienceによる健康で安心な社会の創造に向けて貢献します

LSIメディエンス

臨床検査 / 食の安全サポート / ドーピング検査

〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目2番3号

